

2012年度前期授業アンケート集計結果（全体的特徴）

●アンケートを実施した授業 70

●アンケート実施担当教員 経済学部専任教員21名 非常勤講師19名

1. 【属性】（設問1～設問4）

アンケートに答えた学生の内訳は、次表の通り。

学部学科別人数・構成比					学年別人数・構成比		
学部	学科	人数	構成比	備考	学年	人数	構成比
経済学部	経済学科	891名	41.4%		1年	516名	23.9%
	コミュニティ福祉政策学科	17名	0.8%	6年次生以上	2年	745名	34.5%
	臨床福祉コミュニティ学科	187名	8.7%	1～5年次生	3年	612名	28.3%
	公共政策学科	90名	4.2%	1年次生	4年	252名	11.7%
経営学部	情報メディア学科	246名	11.4%		5年以上	21名	1.0%
	スポーツ経営学科	704名	32.7%		科目等履修	14名	0.6%
科目履修生・交換留学生・聴講生		17名	0.8%		生など		

$$\frac{\text{延べ回答者数}}{\text{延べ受講者数}} = \text{回答率}$$

$$2160 / 3778 = 57.1\% \text{ (昨年度 : 50.9\%)}$$

2. 【学習意欲】

○出席状況の欠席回数（設問5）について、「欠席回数0回」（40.4%）、「欠席回数1～2回」（39.1%）を合わせた欠席2回までの回答は79.5%で、前年度前期（以下前回）より2.6%減少したものの、出席を重視する本学の方針が学生にも定着してきていることが伺える。

○欠席理由（設問6）については、「寝坊」が37.9%、「病気等」が34.0%、「就職活動」が10.4%、「授業がつまらない」が8.2%、「その他」が9.6%であった。前回より「寝坊」が2.1%減ったものの「授業がつまらない」が2.4%増える結果となった。

「その他」の欠席理由を記述式で記入したもの（記述式①）をみると、私用のほか、出席確認システムチケットの紛失や電車の遅延などが挙げられていた。

○「授業選択の目的・動機」（設問7）では、「シラバスを見て興味がわいた」という積極的受講理由は18.2%にとどまり、「必修科目だから」（27.1%）、「時間割を埋めるため」（27.2%）、「資格取得に必要だから」（13.6%）、「先輩や友人からすすめられた」（12.3%）など消極的理由が大勢を占めている。

○「意欲的取り組み」（設問 8）については、「復習を全くしたことがない」が 43.8%であり、授業の復習をして理解を深める習慣が備わっていない者が多いといえる。一方、「ほとんどする」（9.0%）と「復習を毎回する」（6.9%）と回答した学生は合わせて 15.9%で前回より 2.5%増える結果となった。中教審の「学士課程教育の構築に向けて」（答申）において、単位制度の実質化が求められているにもかかわらず、自主的な学習が行われていない現状から、課題を出す等の自習時間を増やす工夫が必要である。

○「シラバスが役立ったか」（設問 9）では、「見ていない」が 55.0%であった。半数以上の学生がシラバスの内容を見ないで授業選択している現状は大いに問題視する必要がある。シラバスが参考になった点を記述式で記入したもの（記述式②）をみると、「しっかり授業の内容が書かれていた」、「授業内容が参考になった」、「主旨が明確である」という回答が見られる一方、シラバスで改善して欲しいこと（記述式②）として、「もっと簡潔にした方がいい」、「シラバスの内容が難しい」といった記述も見られるため、記載項目・内容について一層の充実と工夫を検討するとともに、シラバスを有効に活用するよう指導する必要がある。

3. 【授業評価】

○教科書の理解に関して（設問 10）は、「理解できる」（56.4%）、「十分理解できる」（21.5%）を合わせた教科書が適切であったと思われる割合は 77.9%となり、前回より 1.5%増えている。最後の設問においても、各授業に教科書を求める記述もあり、高校までの学習習慣から、適切な教科書が与えられれば学習する者が一定数いるといえる。

○補助教材（設問 11）については、「役に立った」（48.0%）、「非常に役に立った」（27.7%）を合わせた補助教材が有用だと回答した割合が 75.7%と前回より 8.9%増えており、ビデオやDVDなど映像やパワーポイントなどの利用は、理解を深めるうえで有効であるといえる。また、「補助教材はなかった」の回答 14.9%から、何らかの補助教材を使う授業の割合は 85.1%であることになるが、前回より 6.7%増えている。

○板書（設問 12）については、「分かりやすい」（46.2%）、「非常に分かりやすい」（17.6%）を合わせた回答が 63.8%でほぼ前回どおりの割合となった。一方、「分かりにくい」（9.6%）、「非常にわかりにくい」（2.1%）をあわせて 11.7%あり、具体的には「字が小さい」、「簡潔すぎる」、「消すのが早い」といった記述があった。

○電子化された教材（設問 13）については、「非常に役に立った」が 19.7%、「役に立った」が 29.2%、「あまり役に立たなかった」が 5.2%であった。（設問 11）により、補助教材を使う授業は 85.1%であることから、電子化された教材の利用は全授業の 5 割程度であったといえる。

○教員の話し方・説明（設問 14）については、「分かりやすい」が 61.6%でほぼ前回どおりの割合であり、「わかりにくい」と答えた 4.8%の具体的理由としては、「マイクを使用してほしい」、「聞きとりにくい」、「しゃべるのが早い」といった記述があった。

○「宿題・レポートが出されたことがない」(40.1%)の回答より、宿題・レポートを課しているのは59.9%であることがわかるが、前回より3.3%増えている。宿題・レポートの量・難易度(設問15)については、一部で「難しかった」が9.0%、「量が多かった」が2.4%、「やさしすぎる」が1.9%との回答があった。

○授業の難易度(設問16)は、「理解できる」(48.2%)、「十分に理解できる」(20.3%)をあわせた68.5%が授業を理解できているが、「やや難解」(27.9%)、「難解すぎて理解できない」(3.5%)など教室内の3割あまりの者が理解できずに授業を受けているといえるため、担当者は、授業の進行にあたって学生の理解度を確認する何らかの工夫が必要であろう。

○授業の受講者数(設問17)については、「適切」が79.8%、「多すぎる」が14.7%、「少なすぎる」が5.5%であった。

4. 【授業満足度】

○授業の満足度(設問18)は、「満足も不満もない」が36.0%と最も多く、「まあまあ満足」(34.8%)、「非常に満足」(24.7%)をあわせた「概ね満足」者が約6割、「やや不満」(3.0%)、「非常に不満」(1.0%)を合わせた「不満」者が4.0%の結果となった。

大変良かったと思われる点(記述式⑧)では、「先生が一生懸命教えてくれる」、「話がわかりやすく面白い」、「授業を受けていて楽しかった」といった記述があった。また、「騒がしい人を排除してほしい」といった記述も見られ、周囲で私語を発する学生が非常に不快であるという意見が目立った。また、そのような周囲に迷惑を与える学生に対し、厳しく注意をしてほしいとの声もあがっていた。

以上